

## 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム報告書

氏名： 和田泰三	提出日：平成 23年 1月 4日
<b>東南アジア研究所における職名：特定研究員 (GCOE)</b> * 右記の該当する職位に○をつけて下さい。(講師・助教・助手・ <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">ポストドク</span> ・博士課程学生・修士課程学生・学部学生)	
<b>派遣先の研究機関等 (調査を実施した国名、機関名及びカウンターパートの研究者名)：</b> イギリス・レスター大学・Dr. Simon Conroy, ベトナム・ハノイ鉱山地質大学・Dr. Tran Dinh Kien * 派遣先の研究機関等の種類について右記の該当する箇所○をつけてください。( <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">大学</span> ・研究機関・企業・その他 )	
<b>派遣期間：</b> 平成 22年 10月 4日 ~ 平成 22年 12月18日 (派遣日数： 76日)	
<b>研究活動等の主な内容 (該当する番号に○をつけてください。複数可)</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">①研究・実験</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">②フィールドワーク</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">③セミナー</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">④インターンシップ</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑤サマースクール等の講習</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑥学会出席</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑦単位取得等</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑧その他</span>	
<b>研究活動の主な領域 (該当する番号に1つ○をつけて下さい。)</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">①文学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">②社会科学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">③数物系科学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">④化学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑤工学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑥生物学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑦農学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑧医歯薬学</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑨総合領域</span> 、 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">⑩複合新領域</span>	
<b>派遣の概要 (500~700字程度)</b> (1) イギリス・レスター大学・老年医学ユニット長 Dr. Simon Conroy をカウンターパートとして、レスター大学病院、ノッティンガム大学病院での臨床研修 (Clinical Attachment) を行った。 (2) ロンドン大学熱帯公衆衛生大学院・Center for Ageing・Prof. Astrid Fletcher の指導のもとイギリス国内の75歳以上高齢者の総合機能評価のデータセットから起立時の血圧変動を評価しえた13000人を抽出し、ベースラインでの年齢、性ごとの起立性低血圧の有病率を明らかにするとともにCox-hazard分析の手法をもちいて、起立性低血圧と全死亡率、心血管死亡率の関連を検討した。 (3) 12月8-12日ベトナム・ハノイにおけるThe International Conference on GeoInformatics for Spatial-Infrastructure Development in Earth & Allied Sciences (GIS-IDEAS)に出席し、GCOEとのJoint SessionにおいてCo-Chairmanとして企画・運営をおこなった。 (4) 11月3日-5日イギリス・ブライトンにおけるBritish Geriatric Societyの年次集会に出席し、抑うつに関する情報収集をおこなった。 (5) 11月2日、ノッティンガム大学・看護学部 Sue Ryder Care Centre for the Study of Supportive, Palliative and End of Life Care のProf. Jane Saymor と End of Life Care の国際間比較に関	
<b>事業に係る研究成果 (500~700字程度)</b> (1) 英国老年医学におけるAdvanced Care Planningの概念と、その大学病院、老人ホーム、クリニック、ホスピスにおける実際の運用について情報収集をおこない、老年医学専門医、緩和ケア専門医、心不全専門看護師、悪性中皮腫専門看護師、地域の保健師、保健省医官らと意見交換をおこなった。 (2) 英国在住75歳以上高齢者13000人のうち、26.2%に起立性低血圧を認め、これらはCox-hazard分析の結果、年齢、性、その他の交絡因子で調整しても全死亡と有意に関連することを明らかにした。この知見は2011年度中に国際誌投稿予定である。 (3) ハノイで開催したGIS-IDEAS・GCOE Sessionにおいて、生存基盤指数構築に関する議論をおこなった。 (4) ノッティンガム大学・レスター大学・京都大学東南アジア研究所の共同研究として“Palliative and gerontological care: a cross cultural survey of older adults’ perspectives on advance care planning”と題する研究立ち上げに関する打ち合わせをおこない、Butterfield Awards for UK-Japan collaboration in medical research and public health practiceに2011年度の研究費として5000ポンド申請した。Awardが得られた場合は英国と日本の2国間比較のみならず、今後タイ・インドネシアを含めた国際間比較を行うことを念頭にアンケート項目を検討していくことについて合意した。	